

入学式 式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。寮への引っ越しを終え、共同生活にも少しずつ慣れ始めてきたことと思います。

大学院生の皆さんもご入学おめでとうございます。院生の皆さんには、仕事と学びの二刀流の頑張りが求められますが、ここで学んだ成果が自分の仕事に活かせることを願っています。

長野県立大学は、新入生の皆さんを心から歓迎いたします。皆さんは本学の8期生になり、研究科の皆さんは4期生になります。そしてまた新入生のご家族の皆さまにも、心よりお祝い申し上げます。

本日は、本学の生みの親でもあります長野県知事阿部守一様をはじめ、各方面から多数のご来賓の方々に、ご多忙中のところご臨席を賜ることができました。この場をかりて深く感謝申し上げます。皆さまには後ほどご祝辞を賜りたいと存じます。

今年の長野は、3月中旬まで雪が降りましたが、4月になりようやく水温む春が巡ってきました。桜もまるで新入生を寿（ことほ）ぐかのように開花を迎えました。

長野県立大学は、7年前に開学した新設大学で、91年の歴史と伝統を誇る長野県短期大学の崇高な精神を引き継ぐ、県民の希望と期待を担った4年制総合大学です。ここ数年、日本の県立大学の中で、高い評価を頂いております。

本学の教育の特色については、すでに4月2日のガイダンスにおいて、人間力、グローバル国際力、地域創造力、教養力、専門力の5つの力の話を行いました。また昔と異なり、大学に入ってから4年間の学びこそがその後の人生にとって大切であることも申し上げました。そこで今日は、少し気が早いですが、皆さんが社会人になるにあたっての心構えについてお話したいと思います。

大学の使命には、教育・研究・社会貢献の3つの柱があります。どこに重点を置くかは大学によって様々ですが、本学は県立大学として、地域社会の夢のある創造やより良い発展に貢献できる若者の輩出を最重要課題と位置付けています。そのための教育として、私は自分の頭で考え、責任を持って主体的に判断し、行動できる若者を、更にはこの社会をより良い世の中に変えていこうとする強い意欲を持った若者を育て、輩出することが、本学が目指すべき教育の姿であると自負しているところです。

しかし、日本人は総じて、主体性や自己肯定感が低いと言われていています。上から指示されたからやる、みんなもやっているからやるといった同調圧力が強く、学校においても「先生の言うことをよく聞く真面目な生徒を育てる」という伝統的な上からの教育のために、生徒の主体性や積極性が思うように育たないので

はないかという気がします。

ただ、この伝統的な教育には長所もあり、日本の 15 歳が、OECD が行う PISA の成績において、常に世界のトップクラスに位置するのは、先生の言うことを真面目に聞いてコツコツ勉強する優等生が多いからだと言えます。

本学はこれから 4 年間、グローバルな時代を生き抜く社会人のために必須である主体性や自己肯定感を高めるための教育環境を提供します

具体的には、まず寮では、共同生活やボランティア活動によって、主体性や社会性を磨き、海外プログラムにおいては、現地の人たちと英語で議論することでグローバルな視野や自己肯定感を高めます。また英語集中授業では語学力を身につけ、発信力ゼミでは、少人数によるアクティブラーニングによって主体性やコミュニケーション能力を鍛えます。そして高学年では、ゼミの先生が皆さんを個別に親身に指導し、皆さんの長所を伸ばし、自分の意思・判断の下で、責任をもって行動できる社会人へと成長させてくれるはずです。

こうした資質を新たに身につけることで、既に PISA で証明した高い知力と合わせ、皆さんには社会の様々な分野でリーダーとなり、この世界をより豊かで誰にとっても住みやすい社会に変革する原動力となって頂きたいと思います。皆さんはまさにその崇高な使命を果たすために、本学に選ばれて入学したので

す。

大谷翔平が高校生の時に自ら考えて作った曼荼羅チャート（目標達成シート）は、まさに彼が世界で主体的に生き抜くための青写真となりました。

主体性を持つということは、真に自分の人生を存分に生きるということです。

大学での 4 年間は、あっという間です。良い書を読み、信頼できる友を見つけ、ゼミの先生と思う存分語り合い、かけがえのない青春を謳歌し、心に残る物語を紡いでください。そして、本学の先輩たちの高邁な志を受け継ぎ、新たな時代に相応しい長野県立大学の歴史を築いて頂きたいと思います。

これらすべてのことを心より祈念し、私の式辞と致します。

令和七年四月七日

長野県立大学学長 金田一真澄